

7. 河川空間の利用状況

7.1 河川空間の利用状況

荒川水系（直轄及び都県管理区間）の河川区域の面積は、約 14,110ha であり、そのうち官有地は約 9,356ha（66.3%）である。また、高水敷の面積は約 6,739ha（47.8%）である。

（平成 18 年 4 月 30 日現在）

平成 15 年度の河川利用実態調査によると、荒川水系の河川空間利用者の年間利用者数（推計値）は約 2,400 万人であり、利根川や淀川に次いで全国第三位である。また、水遊びの年間利用者数は 126 万人で全国第一位となっている。

支川のうち入間川、越辺川、都幾川、高麗川、市野川等の下流部は、比較的大きな河川空間を有し農地、公園、グラウンド等に利用されている。

派川隅田川は、水質の改善とあいまって、両国の花火、早慶レガッタ等の行事が復活するとともに、河岸には親水性の高い公園が整備され多くの人々に親しまれている。

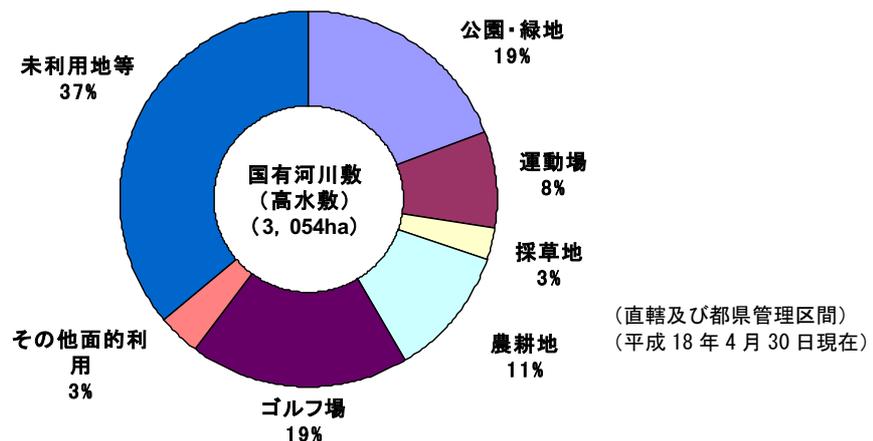


図 7-1 荒川水系国有河川敷・占用等状況

表 7-1 荒川の河川敷利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)	
		平成12年度	平成15年度
利用形態別内訳	スポーツ	12865	12332
	釣り	869	788
	水遊び	471	1257
	散策路	11113	9150
	合計	25318	23527
利用場所内訳	水面	321	287
	水際	1019	1758
	高水敷	19041	17856
	堤防	4938	3626
	合計	25319	23527

(1) 上流部

荒川上流部では、長瀬渓谷でのライン下りや秩父周辺のハイキングコース、キャンプ施設、アユ、ウグイ等の釣り場等に利用されている。また、首都圏から気軽に立ち寄ることができる観光地が多く見られ、川では祭りやイベントが開催されている。

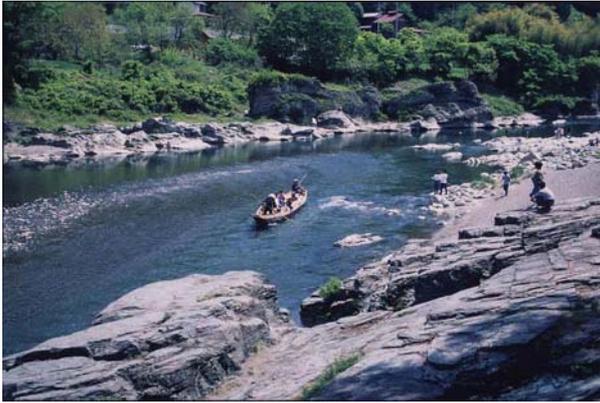


写真 7-1 長瀬ライン下り



写真 7-2 川瀬祭り（秩父市）

【出典：写真集荒川（埼玉県）】

(2) 中流部

荒川中流部は寄居町付近から扇状地が広がり、アユ釣り客の姿が多くみられる。また、熊谷市から下流の広大な高水敷には、かつての荒川の姿を今にとどめる旧流路が残されているとともに、サクラソウの自生地等良好な自然環境を背景に、散策や自然観察等に訪れる人が多い。また、スポーツグラウンド、公園、農耕地など多種多様な利用がされている。



写真 7-3 田島ヶ原サクラソウ自生地

【出典：写真集荒川（埼玉県）】



写真 7-4 太郎右衛門橋下流の旧流路

(3) 下流部

荒川の下流部の高水敷には、グラウンドや公園等が整備されており、スポーツやレクリエーション、憩いの場として多くの人に利用されているとともに、福祉の川づくりとして河川空間の利用促進のため、緩やかなスロープ等が整備され、車いす利用者をはじめ幅広く利用されている。また、広域避難場所として地域の防災機能を担う等、都市部の貴重なオープンスペースとして多様に利用されている。

水面利用としては、江戸時代から舟運が行われ、物資の輸送路として河川が重要な役割を果たしており、現在でも東京湾から秋ヶ瀬取水堰付近まで船舶の航行が可能で、タンカーや水上バス等が往来している。このため、自然環境や他の利用者への影響を考慮し、平成13年4月から全国で初めて「船舶の通航方法」を定め施行している。

また、東京湾のウォーターフロント開発等に伴う水上ネットワークの形成と、都市域における大規模地震時等の非常用輸送路として活用を図っていくため、平成17年10月には、荒川と江東内部河川や隅田川をつなぐ荒川ロックゲートが完成した。



写真 7-5 レガッタ



写真 7-6 荒川ロックゲート



写真 7-7 干潟の利用



写真 7-8 河川敷での野球

(4) ダム湖の利用状況

荒川の上流域には、二瀬ダム、浦山ダムが建設されており、現在滝沢ダムが平成 19 年度完成を目指し、建設中である。これらのダム湖周辺には、人々の利用に配慮した環境整備が行われており、地域と一体となって各種イベントの開催等、利用促進が図られている。

1) 二瀬ダムの利用状況

二瀬ダムによってできた人造湖は、昭和 37 年 5 月にこの地にゆかりの深い秩父宮妃殿下によって「秩父湖」と命名され、奥秩父の観光名所の一つに数えられ人々に親しまれている。また、ダム湖周辺は遊歩道が整備されており散策路等として利用されている。

なお、現在滝沢ダムと一体となって、荒川源流ダム水源地域ビジョンが策定されている。



写真 7-9 ダム湖周辺の遊歩道
【出典：二瀬ダム管理所 H.P】

2) 浦山ダムの利用状況

浦山ダムは秩父さくら湖と呼ばれ、ダムの利活用をさらに推進し、地域の活性化を図る目的で、平成 7 年に「地域に開かれたダム」の指定を受けて整備が行われている。

毎年 8 月に開催する「秩父さくら湖祭り」では約 7 千人（平成 17 年）が来場している。また、水面はカヌー等の利用が盛んであり、ダム湖周辺は遊歩道やサイクリングロード等が整備されており、ダム資料館「うららびあ」が併設されている。



写真 7-10 秩父さくら湖祭り（左） カヌーの利用（右）

【出典：秩父さくら湖 H.P】

7.2 河川の利用状況

(1) 内水面漁業

荒川の河川漁業の漁獲高について、東京都と埼玉県でわけて見ると以下のとおりである。

埼玉県内の河川漁業は、昭和60年をピークに減少傾向にあり、平成15年は昭和60年の3割以下まで減少している。漁獲高の内訳はフナが多くを占めており、コイ、ウグイ、オイカワ、アユ、マス類も比較的多い。

一方、東京都内の河川漁業は、徐々に増加傾向にあり、平成15年は平成12年の約3倍になっている。漁獲高の内訳はシジミが多くを占めている。

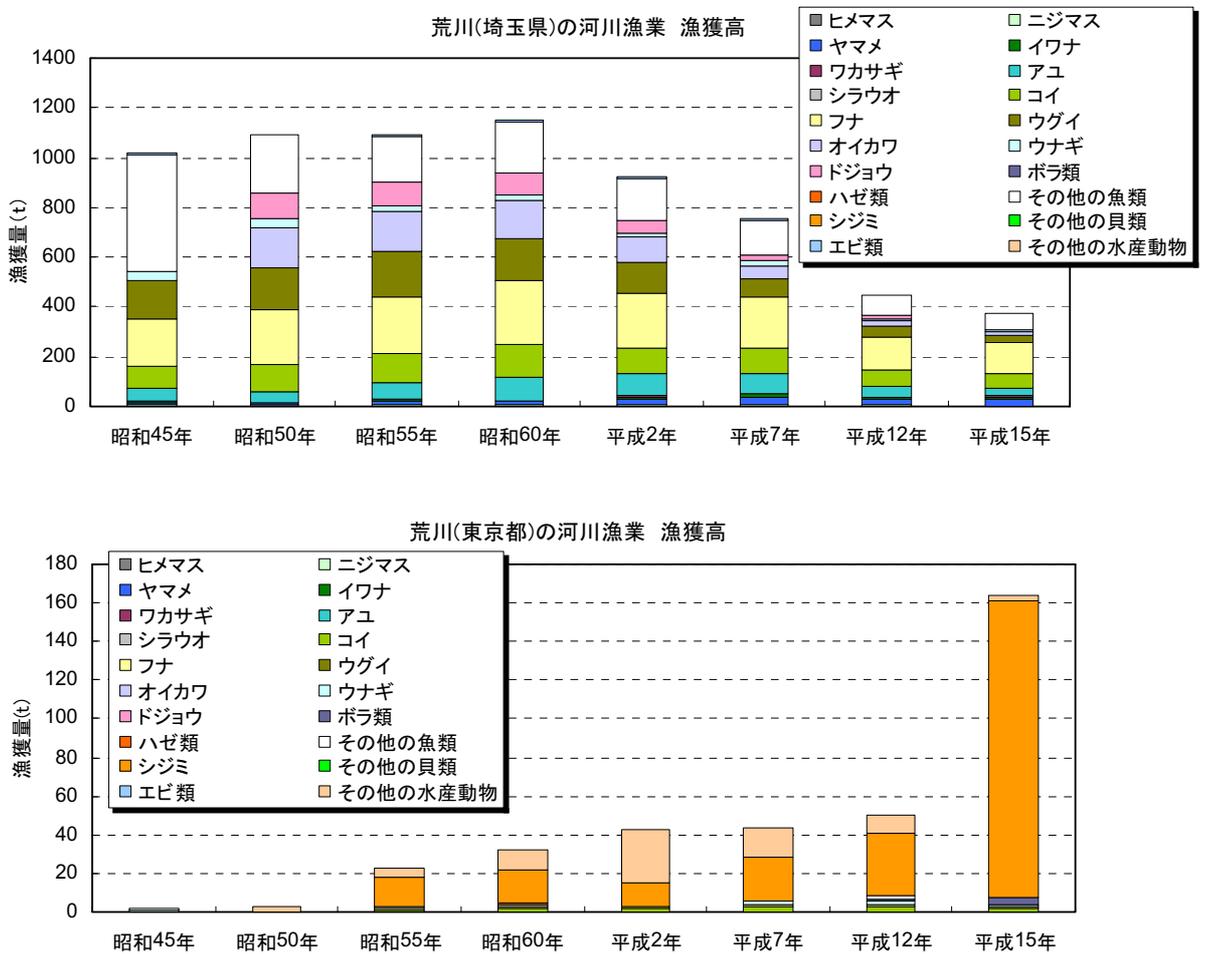


図 7-2 荒川の河川漁業 漁獲高

※漁業・養殖業生産統計年報（農林水産省統計部）

(2) 舟運等

荒川の河口から秋ヶ瀬取水堰までの約 40km は、タンカー・水上バス・プレジャーボート・レガッタなど船舶が行き来しており、水上交通や観光、物流・資材運搬として利用されている。

また、漕艇やカヌー等のボート教室の開催など、アウトドアイベントの場としても利用されている。



写真 7-11 荒川を航行するタンカー（左）とレガッタ（右）

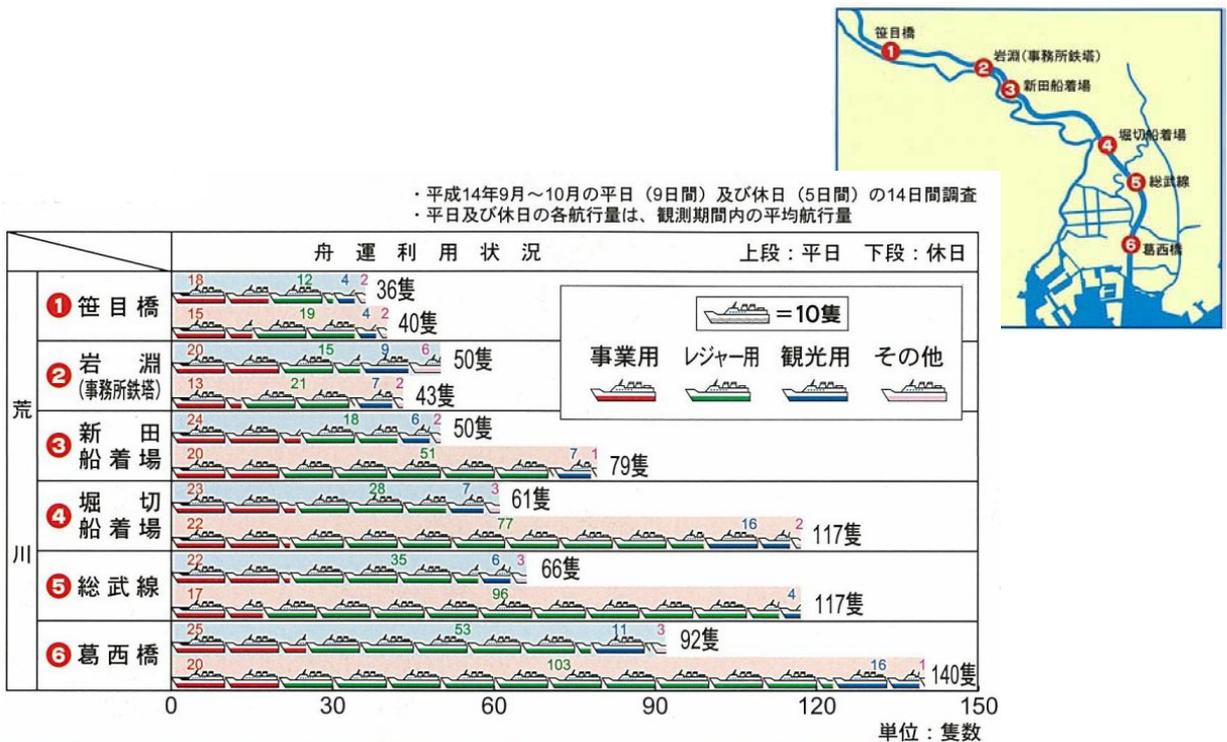


図 7-3 現在の船舶の航行量